

沙羅の樹文庫だ・よ・り



ひいらぎの花(ネットから)

11.22 天声人語に使われていた若山牧水のお酒のうたから、
新刊「牧水の恋」(俵万智著)、そして、新書版「ぼく、牧水！」
(伊藤一彦/増田雅人(俳優)の著)を拾い読みしてみました!

白玉の茜にしよとほる秋の夜の
酒はしづかに飲むべかりけり

それほどにうまさかと人のどひたらば
なんと茶へむこの酒の味

吾木香すすきかると秋くさの
さびしききはみ君におくらむ

秋、飛沫、岬の光りあざやかに
わが身利せかし、旅をしぞ思ふ

浪、浪、浪、沖に居る浪、やよ待て
われも山降りて行かむ

★秋のうたを、ちょこっと拾ってみました。
白鳥は哀しからずや空の青海のあきにも染まらずだ
だよふ、も秋に詠んだうたのようです。

沙羅の樹文庫開館スケジュール

2018

★開館日は通常は
第3日曜と前日の土曜です★

◆11月は変則4週 24日(土)～25日(日) 両日

◆12月は通常 15日(土)～16日(日) 両日

16日 AMクリスマスおたのしみ会があります。

プレゼント用意してきてお!

2019

◆1月は通常 19日(土)～20日(日) 両日

◆2月は通常 16日(土)～17日(日) 両日

◆3月は通常 16日(土)～17日(日) 両日

通常の文庫の時間

土曜は 14:00～17:00 日曜は 10:00～15:00

☆毎月開館日の日曜には、10:30～11:30
子どものための小さなおはなし会があります。

★毎月開館土曜日 11:00～13:00

☆☆おはなし沙羅の勉強会☆☆

よみきかせの練習・本選びの勉強にもどうぞ!

よみきかせ、かたりの参考資料多数在庫



大室のハリネズミも冬支度を始めたので
左の絵本のハリネズミの
おじいさん、道端で金貨を一枚拾います。
これに、冬を過ごすための何をかかっか。
でも、やさしい動物の仲間がみんま、用意
してくれました。そこで、ハリネズミ、金貨
をどうしたでしょう。読んでみてね♡
♡文庫にあります。読んでみてね♡

文庫だよりのバックナンバーは、
沙羅の樹文庫ホームページをご覧ください。
<http://saranakibunko.com>

文庫あれこれ◆今日、11月23日勤労感謝の日。ピ
リッとした寒さを少し感じますが、空は青、快晴の
朝です。枯木立の向こうに、大島が見えて、海は金
箔を貼ったように、太陽に輝いています。林の風は
さわやか。◆昨日5時過ぎに文庫にきました。この時
期、すでに日が暮れて、文庫は真っ暗。全部に灯り
をつけて、宅急便屋さん、プッカーかけてくれるO
さんが新刊を届けてくれて、今も文庫の準備開始
◆到着がおくれたのは、中学の同窓会の打ち合わせ
が、地元付近の水天宮のホテルであったため。20
年、満で喜寿になる私たち、これで同窓会もめで
たく打ち止め、のつもりでしたら、オリンピックやら
諸般の事情のため、来年に繰り上げ。会場見学もか
ねて。◆久しぶりに東京駅から。駅弁いくつも買
い込んで◆ついて早速文庫だよりに取り掛かり、い
つも表紙に悩みます。ふと来月はクリスマスお楽し
み会だ、と思ったら、「ヒいらぎかざろう、ふあら
らららー、ららら」のメロディが口をついて。
で、何と調べたら、桜の花は11月に咲く花とわか
り、またまたネットから拝借。撮影者様、感謝。◆
でも、クリスマスに飾る赤い実をつける西洋ヒラ
ギでなく、この花は日本の桜の花。実は6月ごろで
どす紫とか。でもとげとげの葉の中に何と白くて
可憐。気に入った!そしてさらに思い出しました。
実家の紋が「抱き桜」でした。◆ちらっと耳をかた
むければ、国会で、世界で、お偉いさんたち、何や
っているんだか。政治経済かけひきもいけれど、
歴史は繰り返すとも言われるけれど、戦争に巻き込
まれるのも、巻き込んで絶対になりません、ね。
◆いま、児童書で、ホンジュラスやグアテマラから
出稼ぎにアメリカに渡って消息を断つた父母を探し
に苦難苦闘の旅を続ける少年たちの話を読んでいま
す。新聞で、メキシコの国境の壁にたどり着き、足
止めされている避難民の様子を垣間見ると、自分の



娘のライフの帰り

六本木交差点からみた東京タワー!

国の政府を信じられない、
ということはどういうこと
なのか、まだまだ日本に在
るありがたさを感じずには
はいられませんが、他人事
でない気が。◆ここに来て
本に囲まれる幸せを思うと
同時にこの雑然とした書架
の状況も悩みの種。◆とも
あれ、新刊も古典も種々有
り、お楽しみあれ。(西村)

2018年11月に読んだ本についての感想

2018年11月20日 By 森林浴

『誰も書かなかった 日韓併合の真実』

(豊田 隆雄著 彩図社 2018年初版発行)

前から韓国や朝鮮のことは何か気になっていたの
で、こういう本に出会うと読んでみたくなるのは
自然だが、読んでみて昔こんなふうな本を読んだ
記憶があるので身辺を探してみたら、なんと2014
年に出た同じような本を買って読んでいたことが
判明。

今度のこの本が「誰も書かなかった」と言うのは
ちょっと無理で、実は2014年9月に宝島社から「日
本人なら知っておきたい日韓併合の真実」という
が出ていて、私は買って読んでいたのだ。豊田隆
雄氏は高校教師で真面目に研究されている方のよ
うだが、宝島社から出た本の方が内容は充実して
いるみたいだ。こちらは福田和也氏と藤原敬之の
共著で、写真などが一杯入っており大判で読み易
い。結局趣旨は同じようで、併合した日本はなか
なか良い治世をしたのだ、と言う点は大差ないよ
うだが。

宝島社からは同じような「別冊 宝島シリーズ」
として、「太平洋戦争シリーズ」や「源氏物語絵
巻」のなどもあり、とても読み易く作ってあるの
で、我々のような図書館としては収集するによい
対象になると思った。

個人的には歴史からみて、韓国が何故うまく経営
されていないのか、その理由にTVの韓国ドラマで
必ず出て来る「両班支配」と称する妙な身分差別
の弊害をいつもオカシイと思っていたものだ。

『日本史の論点—邪馬台国から象徴天皇制 まで—』 (中公新書編集部編 中央公論新社

2018年8月再販)

これは凄い本だ。今は日本が一種の歴史ブームと
もいべき時代で、歴史の本が良く売れるし、ま
た実際に面白い。人気のある歴史学者では、例え
ば、呉座勇一や磯田道史があり、私もこういう方
の出るTV番組は優先して観ているし、一般向けの
本にも手が延びる。

しかし歴史はじつに分からないことだらけで、実
は「史実」を知るのは大変なんですね。

此の中央公論新社から出た本は、ブームの中で史
実を正攻法で追跡しているものとして一種凄み
があるように思う。要するにいい加減なことは許さ
ないという歴史学の本道を追及している厳しさが
感じられる。

全体を古代・中世・近世・近代・現代の5章に分
け、それぞれを今一番油の乗った学者5人が分担し
て執筆するという構成で、それぞれいい加減なこ
とは許さないという気迫で取り組んでいる雰囲気
が感じられる。一番若い近代担当の清水唯一朗教
授はまだ46歳だ。

近世担当の大石先生の参考書には、度々この感想
文にも登場した渡辺京二『逝きし世の面影』も登
場している。

.....☆☆☆☆.....

「あまんきみこさん」のおはなしを聞きに

11月の小春日和の一日、湯河原の町立図書館に「あ
まんきみこさん」のおはなしを聞きに行ってきました。
これは、9月の末に開催予定だったものが、台風の影響
で延期になったものでした。湯河原で読み聞かせな
どをしているお友だちに誘われたもので、伊豆高原を
まねて開かれるようになった「アートさんぽ」も開催
中だったので、お友だちの「本のコレクションと編み
物展」も見ることができました。

(中西景子)

図書館の小さな講堂は後ろに予備の椅子も出てい
っぱいになりました。最初は、女の人ばかりねなどと
観察していたのですが、帰りには、家族連れのパパや、
高校生らしい男子もいて、幅の広いファン層だと思
い直しました。

伊豆高原のアートフェスティバルにも参加してい
た(私も行ったことのある)「ギャラリーとぶ魚」の作
田さん(元福音館書店の編集者の方)が上手に対話の
お相手をしておはなしを引き出され、小さい頃の大連
のはなし。病弱の一人っ子はいつも窓から空を見てい
る子どもだったこと。中国人の土地を奪って日本人社
会を作った事を知り、後にいろいろなことを知るよ
うになって居心地の悪い気持ちでいたこと。女学校
を出てすぐに親の決めた人と結婚し、子どもを産ん
でしばらくしてから日本女子大学の児童学科の通信教
育を知って入学し、その時は文章を書くつもりもな
かったのに、小さい頃から書くことが好きで、「投稿」
と言うことを知り、与田準一や「びわの実学校」との巡
り合わせもあって、「車のいろは空のいろは」でデビ
ューできたことなどなど、興味深いおはなしがたくさん聞
けました。私より10才上とは思えない、やさしい、
つややかな声で、自作「ふうたのゆきまつり」の朗読
もしてくださいました。

講演が終わっての質問タイムには、一番前で聞いて
いた小学生の女の子が「何か聞きたいことある？」
と尋ねられて、「童話を書いてないときは何をしてい
らっしゃるのですか」と質問しました。「お掃除や洗濯
や料理や庭の草むしりなど、普通のことよ」と答えら
れ、「普通のことごとでめんなさいね」と言って、会場は
笑いにつつまれました。

1931年生まれ87才。京都からお出掛けいた
いたそうですが、2時間のおはなしと朗読にもお疲れ
も見せず、とてもとてもお元気そうに見えました。

18年11月に入った子どもの本

絵本

- 『どんぐりかいぎ』(こうやすすむ文 片山健絵 福音館書店) ID12848
 『みまわりこびと』(アストリッド・リンドグリーン文 キティ・クローザー絵 伏見みさを訳 講談社) ID12849
 『トムテ』(リードベリサク ウィーベリエ やまのうちきよやく 偕成社) ID12850h
★文庫に見回り小人トムテがいるのを知ってますか?
 『雪の花 ロシアのお話』(セルゲイ・コスロフ原作 オリガ・ファジェエヴァ絵 田中友子文 偕成社) ID12861
 『ランパンパン-インドみんわ』(マギー・ダフ再話 ホセ・アルエゴ/アリアヌ・ドウイェ 山口文生やく 評論社) ID12852
 『川をはさんでおおさわぎ』(ジョン・オープンハイムサク アリキ・ブランテンバーグえ ひがしはじめやく アリス館) ID12858
 『アルフィーとせかいのむこうがわ』(チャールズ・キーピング作 ふしみみさを訳 ロクリン社 2018) ID12868
 『もっくりやまのごろったぎつね』(征矢清さく 小沢良吉え 小峰書店) ID12859
 『おつきさんのぼうし』(高木さんご文 黒井健絵 講談社) ID12860
 『戦火のなかの子どもたち』(岩崎ちひろ作 岩崎書店) ID12869

クリスマスの絵本も いっぱいはいっただよ

- 『クリスマスのうさぎさん』(ウィルとニコラスさく・え わたなべしげおやく 福音館書店) ID12851
 『やかまし村のクリスマス』(リンドグリーン作 ヴィークランド絵 おさきよし訳 ポプラ社) ID12857
 『クリスマスのおかいもの』(ルー・ピーコックぶん ヘレン・スティーンズえ こみやゆうやく ほるぷ出版 2018) ID12865
 『メリークリスマス 世界の子どものクリスマス』(R.B.ウィルソン文 さくまゆみこ訳 市川里美画 BL出版 2018) ID12867
 『もりのえほん』(安野光雅絵 福音館書店) ID12853
 『さかさま』(安野光雅さく/え 福音館書店) ID12855
 『こっぷ』(谷川俊太郎文 今村昌昭写真 日下弘AD 福音館書店) ID12854

読み物

- 『女の子の昔話-日本につたわるとっておきのおはなし』(中脇初枝再話 偕成社) ID12856
 『クリスマスのあかり チェコのイブのできごと』(レンカ・ロジノフスカ作 出久根育絵 木村有子訳 福音館書店 2018) ID12866
★『あの犬が好き』(シャロン・クリーチ作 金原

- 瑞人訳 偕成社) ID12862
**★『サンゴしょうのひみつ』(ジョイ・カウリー作 百々佑里子訳 富山房) ID12863
**★『ナム・フォンの風』(ダイアナ・キッド作 もりうちすみこ訳 あかね書房) ID12864
★『町かどのジム』(エリノア・ファージョン文 松岡享子訳 童話館出版) ID12870****



★ちょっと目に入った古い本が面白く、そしたらその著者、アンデルセン賞を受賞していました。それで、アンデルセン賞受賞者&作品を調べてみました。(隔年授賞。2018 角野栄子、2014 上橋穂子 get)

1956: ファージョン『ムギと王さま』
 1958: リンドグリーン『さすらいの孤児ラズムス』
 1960: ケストナー『わたしが子どもだったころ』
 1962: ディヤング『運河と風車とスケートと』
 1964: ルネ・ギヨ『こいぬの月世界探検』
 1966: トーベ・ヤンソン『たのしいムーミン一家』
 1968: ホセ・マリア・サンチェス=シルバ『汚れなき悪戯』
 1970: ロダーリ『テポリーノの冒険』
 1972: スコット・オデール『ナバホの歌』
 1974: マリア・グリーベ『忘れ川をこえた子どもたち』
 1976: セシル・ポトカー『シーラスと黒い馬』
 1978: ポーラ・フォックス『十一歳の誕生日』
 1980: ポフミル・ジーハ『ホンジークのたび』

※これ以降は12月に。下線は文庫にあります。

18年11月に入ったおとなの本

フィクション

- 『銀河食堂の夜』(さだまさし著 幻冬舎 2018) ID17686
 『チンギス紀 3 虹暈』(北方謙三著 集英社 2018) ID17687※request
 『元年春之祭』(陸秋槎著 稲村文吾訳 早川書房 2018) ID17688
 『ある男』(平野啓一郎著 文藝春秋 2018) ID17697
 『湖の男』(アーナルデュル・インドリスダソン著 柳沢由美子訳 東京創元社 2018) ID17664
 『洪水の年、上・下』(マーガレット・アトウッド著 佐藤アヤ子訳 岩波書店 2018) ID17684、17685
 『監禁面接』(ピエール・ルメートル著 橋明美訳 文藝春秋 2018) ID17689
エッセイほか
 『針と糸』(小川糸著 毎日新聞出版 2018) ID17699
 『牧水の恋』(俄万智著 文藝春秋 2018) ID17691
 『折口信夫秘恋の道』(持田叙子著 慶応義塾大学出版会 2018) ID17692
 『歌集滑走路』(萩原慎一郎著 角川書店 2017) ID17696

- 残したもの』(久住邦晴著 ミシマ社 2018) ID17694
 『未来を変えた島の学校-隠岐島前発ふるさと再興への挑戦』(山内道雄/若本悠/田中輝美著 岩波書店) ID17683※寄贈
新書
 『「やる気が出ない」が一瞬で消える方法』(大嶋信頼著 幻冬舎新書 2018) ID17695
文庫
 『父からの手紙-長編小説』(小杉健治著 光文社文庫) ID17665※request
 『チャリング・クロス街 84 番地-一書物愛する人のための本』(ヘレン・ハンフ編著 江藤淳訳 中公文庫) ID17666
 『地下道の鳩 ジョン・ル・カレ回想録』(ジョン・ル・カレ著 加賀山卓朗訳 ハヤカワ文庫 2018) ID17690

- 文庫 寄贈**(Nさん、Tさん他からいただきました。)
 『異郷のぞみし(空也十番勝負 青春篇)』(佐伯泰英著 双葉文庫) ID17675 『木枯らしの(吉原裏同心抄4)』(佐伯泰英著 光文社時代小説文庫) ID17676
 『黄金色の雲(口入屋用心棒)』(鈴木英治著 双葉文庫) ID17677 『群青色の波(口入屋用心棒)』(鈴木英治著 双葉文庫) ID17678
 『絵のある自伝』(安野光雅著 文春文庫) ID17679
 『On 猟奇犯罪捜査班・藤堂比奈子』(内藤了著 角川ホラー文庫) ID17680 『Cut 猟奇犯罪捜査班・藤堂比奈子』(内藤了著 角川ホラー文庫) ID17681
 『1 ポンドの悲しみ』(石田衣良著 集英社文庫) ID17682

徒然なるままに・・・ひとりよがりの。
 ★最近どこかで、安野光雅が書いたものを読んで、岸田裕子訳『赤毛のアン』(500p 余)を読んだ。中学生のころ、村岡花子訳で十分アンの空想力の恩恵を受けたが、60年以上を経て、岸田さんの訳は、また新鮮楽しくこの上なく心豊かにさせてくれた。ほかにもアンの訳者はたくさんいて、きっとそれぞれの訳者が、モンゴメリの文章を愛したのではないかしら、と思う。どなたかが下さった少しおとなむけの『青い城』は、谷口由美子訳だが、この年で読んで味わえた主人公のヴァランシーを通して自然の限りない美しさも、読者である私はモンゴメリからの贈り物として、体全体でヴァランシーになって享受できた。私は、人の書いたものや、昔話を語るのだが、その話を目の前の人に自分が語りながら味わっているそのものを共有してほしい、と願う。語りながら自分の目の前に現れる物語の映像を聴き手に見てほしいと願う。それを表現するためには、自らの感性と知性と想像力を駆使せねばならないのだが、アンやヴァランシーたち、本の中の世界が助けてくれることもすごく多い。★今回、『牧水の恋』(俄万智著)を入れた。著者の語る牧水の評伝の切り抜きをみて、恥ずかしながら、わずかながら知っていて気に入っていた彼の短歌がすべてである女性に捧げた恋歌だったらしいと知った。でも、著者が言うように、読み手の意図を超えて、読む人が自分の人生を投影できる普遍性に私も含めて人々は感じ入るのだろう。恋を卒業した身はそうではないといくつかの歌はあまりに生々しい。牧水については、『ぼく、牧水!』(俳優の堺雅人の言葉もなかなか)も読まれたし(新書版)。★新書が手ごろでプームになっているらしい。この年になると持ち歩きに便利なのでない。文庫にもせっせと入れている。私的には、ちょい読みして、これからも、今を知り、語りの力をもらいたいと思う。★読書週間らしく、読書シンポジウムで触れられた主な本(朝日新聞からの切り抜き。シンポジウムに参加した人々控え忘れ。)を：『ハナさんのおきやくさま』『魔女の宅急便』(角野栄子著)『ファラデーの生涯』(スーチン著)『流転の海』(宮本輝著)『人生に二度読む本』(城山三郎/白岩外四著)『父が子に語る世界歴史』(ネルー著)『シャーロットのおくりもの』(E.B.ホワイト著)『1つぷのおこめ』(デミ著)。★それぞれの本の価値も時代とともに変わるけれど、個人個人には、変わらぬいとおしい本もある。(さ・ら)